

「ちばエコ農産物」栽培のために! (品目別栽培カード ②)



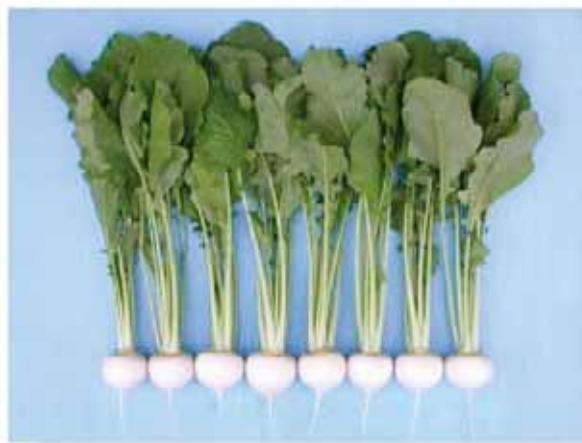
コカブ栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

コカブの栽培基準は、冬どり、春どり、初夏どり、夏どり、秋どり栽培の5作型に区分されており、化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量(窒素成分量)は表1のとおりです。

また、堆肥の施用量は1,000kg/10aが目安量とされています。



▲ 収穫したコカブ

表1 「ちばエコ農産物」栽培基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量

(平成19年3月現在)

作 型	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)	収 穫 期
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)		
冬どり栽培	3	9	1,000	12~3月
春どり栽培	3	13		4~5月
初夏どり栽培	4	6		6月
夏どり栽培	4	1.5		7~9月
秋どり栽培	5	6		10~11月

2 栽培基準達成のポイントと考え方

1 雑草防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した薬剤防除例を表2に示します。

栽培基準達成のためには、害虫防除がポイントとなります。主要害虫は、コナガ、キスジノミハムシ、ハモグリバエ類、アブラムシ類などですが、害虫の加害を防ぐためには、物理的防除法として割繊維不織布（割布）などをトンネル被覆することが必須です（冬どり栽培を除く）。また、根部を食害するキスジノミハムシに対しては、播種時にフォース粒剤を処理することが望まれます（冬どり栽培を除く）。殺虫剤の使用回数を減らすことが栽培基準の達成に結びつくため、圃場をこまめに観察し、害虫初発時に薬剤を処理することが必要です。また、コナガに対しては、野菜類に登録のあるBT水和剤（化学合成農業に含めない農業）の使用も有効です。

病害では、主に白さび病が問題となります。抵抗性品種や野菜類に登録のあるジーファイン水和剤（化学合成農業に含めない農業）の使用によって、殺菌剤の使用回数が減らせます。しかし、常発圃場では予防効果の高いリドミル粒剤2を使用することが望まれます。

表2 コカブ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農業防除例

作 型	農 薬 名	対象病害虫	備 考
冬どり	エルサン乳剤	コナガ、アブラムシ類	発生に応じて使用
	アフーム乳剤	コナガ	//
春どり	フォース粒剤	キスジノミハムシ	播種時土壌処理
	リドミル粒剤2	白さび病	常発圃場で使用、播種時土壌処理
	ハチハチ乳剤	ナモグリバエ、コナガ	発生に応じて使用
	アフーム乳剤	コナガ	//
	※ガードジェット水和剤	コナガ	栽培基準を超える場合に使用
	※ジーファイン水和剤	白さび病	予防散布
初夏どり	フォース粒剤	キスジノミハムシ	播種時土壌処理
	リドミル粒剤2	白さび病	常発圃場で使用、播種時土壌処理
	ハチハチ乳剤	キスジノミハムシ、ナモグリバエ	発生に応じて使用
	マラソン乳剤	ナモグリバエ、アブラムシ類	//
	アフーム乳剤	コナガ	//
	※ガードジェット水和剤	コナガ	栽培基準を超える場合に使用
	※ジーファイン水和剤	白さび病	予防散布
夏どり	リドミル粒剤2	白さび病	常発圃場で使用、播種時土壌処理
	フォース粒剤	キスジノミハムシ	播種時土壌処理
	ハチハチ乳剤	キスジノミハムシ、コナガ	発生に応じて使用
	DDVP乳剤75	キスジノミハムシ、コナガ	//
	アフーム乳剤	コナガ	//
秋どり	※ガードジェット水和剤	コナガ	栽培基準を超える場合に使用
	フォース粒剤	キスジノミハムシ	播種時土壌処理
	リドミル粒剤2	白さび病	//
	DDVP乳剤75	コナガ、アブラムシ類	発生に応じて使用
	アフーム乳剤	コナガ	//

注1)※印は「化学合成農業に含めない農業」

A 冬どり栽培

冬どり栽培は、病害虫の発生が少ないため、栽培基準を達成することは容易です。病害虫の発生しやすい圃場では、対象となる薬剤処理が必要ですが、無農薬でも栽培ができます。

B 春どり栽培

春どり栽培は、収穫期に向けて気温が上昇し、害虫が活動し始める時期に当たります。ハモグリバエ類、コナガの防除が中心になります。播種時にフォース粒剤を処理し、生育期間中は発生害虫に応じて薬剤を選択します。白さび病が発生しやすいため、抵抗性品種の利用やジーファイン水和剤を予防散布します。ただし、常発圃場では播種時にリドミル粒剤2を処理します。



▲ 害虫の加害を防ぐ為の刈藪雑不織布(割布)被覆

C 初夏どり栽培

初夏どり栽培は、害虫の活動が活発化する時期に当たります。ハモグリバエ類、コナガ、キスジノミハムシの防除が中心になります。播種時にフォース粒剤を処理し、生育期間中は発生害虫に応じて薬剤を選択します。白さび病が発生しやすいため、抵抗性品種の利用やジーファイン水和剤を予防散布します。ただし、常発圃場では播種時にリドミル粒剤2を処理します。

D 夏どり栽培

夏どり栽培は、害虫の発生量が最も多い時期に当たります。他の作型で問題とならないアザミウマやハダニ類による被害が生じる場合もあります。播種時にフォース粒剤を処理し、生育期間中は殺虫剤を適宜使用することが重要です。特に、キスジノミハムシが多発する時期なので、成虫防除を徹底します。なお、萎黄病や雑草防除対策などで土壌消毒が必要な圃場での栽培は困難です。

E 秋どり栽培

秋どり栽培は、害虫の活動が停滞する時期に当たります。コナガ、アブラムシ類の防除が中心になります。播種時にフォース粒剤を処理し、生育期間中は発生害虫に応じて薬剤を選択します。白さび病が発生しやすいため、抵抗性品種の利用やジーファイン水和剤を予防散布します。なお、他の作型に比べて殺虫剤の使用回数を少なくできるため、播種時にリドミル粒剤2を処理すると効果的です。

2 施 肥

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。

コカブ栽培では、現地事例でも有機質肥料や有機配合肥料を主体とした施肥が多く、栽培基準を達成することは比較的容易です。ただし、登録名称中に「有機」などが記載された肥料でも、化学合成由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせて、肥料袋裏面にある生産業者保証票を確認し、有機質由来と化学合成由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

なお、本施肥例は主要農作物等施肥基準(平成16年、千葉県)に準じて作成しましたが、施肥量は各圃場ごとの土壌診断結果に基づいて決めることをお勧めします。

表3 コカブ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施肥例

作型	区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
			窒素	リン酸	加里		窒素	リン酸	加里
	堆肥	稲わら堆肥				1,000			
冬どり	基肥	有機アグレット673特号	6(0)	7	3	116	7(0)	8	4
		スーパーMMB有機020	10(2)	12	10	70	7(6)	8	7
		総施用量					14(6)	16	11
春どり	基肥	有機アグレット673特号	6(0)	7	3	167	10(0)	12	5
		PK化成30号		10	20	25		3	5
		総施用量					10(0)	15	10
初夏どり	基肥	有機アグレット673特号	6(0)	7	3	167	10(0)	12	5
		PK化成30号		10	20	25		3	5
		総施用量					10(0)	15	10
夏どり	基肥	有機アグレット673特号	6(0)	7	3	50	3(0)	4	2
秋どり	基肥	有機アグレット673特号	6(0)	7	3	167	10(0)	12	5
		PK化成30号		10	20	25		3	5
		総施用量					10(0)	15	10

注1) ()内数値は、総窒素量のうち化成肥料由来の窒素成分量とした。

2) 堆肥の原材料は稲わらであり、現物当たり全窒素量は0.15%、水分は57%である。

☆この「品目別栽培カード」に記載した農業使用は、平成18年度現地実証試験時点のもので、実際の農業使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農業使用基準を守って使用してください。

●著 作 千葉県農林水産部農業改良課
千葉県農業総合研究センター
●編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
●発行年月日 平成19年3月
■内容についての問い合わせ先
千葉県農業総合研究センター TEL.043(291)9987
または各地域の農林振興センター